

「高崎プライド」 ～心と形を整える～

令和3年3月12日（金） NO26 文責 木下 文秋

卒業おめでとう

コロナの感染者がやや減少し、県内においても「感染者なし」という日が続いています。とは言っても、全国的にはまだ感染者の報告は続いており、年末年始のように人の流れが始まれば、同じことの繰り返しになるだろうと案じるところです。そんな中、第74回卒業証書授与式を執り行います。人と人との間隔を十分確保することが前提の式になりますので、大きな学校では卒業生と保護者だけというところもあります。本校では、卒業生とその保護者に加え2年生のみ入れたいと考えています。残念ながら1年生まで入れてしまうと間隔が維持できません。2年生を入れたい理由は2つです。1つはできるだけ多くの人に祝ってほしいということ。もう1つは2年生に卒業式を是非見せたいということです。今回式に参加しなかったら、2年生は卒業していく者の立ち振る舞いや、厳かな雰囲気を感じることなく、来年自分達の卒業式を迎えることになります。それは避けたいと強く思います。2年生の皆さん。卒業生の歌や動きを目に焼き付けてください。そして、3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。どんな3年間でしたか。ところで、どうして「おめでとう」という言葉を口にするのでしょうか。それは、卒業を迎えることは当たり前ではないからです。昨日3月11日は東日本大震災から10年目の節目の日でした。あの日、津波にのまれて尊い命を落とした中学生がたくさんいます。来週、無事卒業式を迎えることができる皆さんにとって、それは当たり前ではないということです。どうかその意味をしっかりと汲んでほしいと思います。部活動のこと、友達のこと、勉強のこと、色々思い出は尽きないと思いますが、大事なことはここで経験したことをこれから先の生活に活かすということです。そして、もうひとつ。ご家族の皆さんに感謝の気持ちを忘れないでください。皆さんの表情ひとつで心配されてきたはずです。どうか感謝の気持ちを言葉で伝えてください。「卒業できました。ありがとうございました」と言えるとご家族の皆さんのご苦勞は全て報われると思います。私にとって6校目の勤務校ですが、こんなに素直で温かくハートのある生徒に出会ったのは初めてです。皆さんが卒業していくことはとても残念です。しかし、これから先の人生に幸多きことを祈念して卒業をお祝いしたいと思います。